

# 日本語形容詞、形容動詞との比較による 「一な」付加される英語借用語の語彙範疇化について

## On the Lexicalization of “na”-Appended English Loanwords in Comparison with Japanese Adjectives and Adjectival Verbs

野中 博雄

### 要 約

本論文は、「スーパー大辞林」（三省堂：2004）での形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語の語数、派生語の特徴を比較して「一な」カタカナ語の品詞について考察することを目的とした。

結論としては、形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語の文法的ふるまいの差異は「語彙特性」と「語の意味素性」が影響しているのではないか、また形容動詞、「一な」カタカナ語の接辞結合割合の差異は「語の意味素性」と『「一な」カタカナ語の日本語順化の割合』が影響していると捉えることを提案した。

キーワード：「一な」カタカナ語、日本語形容詞、日本語形容動詞、語数、派生語

### はじめに

英語形容詞がカタカナ語として日本語に借入される時、「一な」を付与して形容詞化され、「一に」を付与して副詞化される。また「一だ」を付与して形容動詞化される。下記(1)の例文中、下線部のカタカナ語がそれらの例となる（以下「一な」カタカナ語と総称する）。

- (1) a. ナイーブな性格だ。 (形容詞化)  
b. アクティブに活動する。 (副詞化)  
c. 彼は大変クレバーだ。 (形容動詞化)

一方で日本語形容動詞、または日本語形容名詞として扱われる語類がある。

- (2) a. 綺麗な女性だ。 (形容詞化)  
b. 活発に活動する。 (副詞化)  
c. 彼は大変賢明だ。 (形容動詞化)

上記(2)の例文中の下線が引かれている語は日本語で形容動詞、または形容名詞と語彙範疇化されている（以下両者の相違について論議する時以外は形容動詞と統一して表現する）。上記(1)、(2)の例文の平行性

を見る限りでは「一な」カタカナ語は日本語形容動詞として扱われることが推測できる。

日本語形容詞の場合は日本語形容動詞や「一な」カタカナ語とは違った形態的特徴がある。以下に示す。

- (3) a. 美しい花だ。 (名詞修飾)  
b. この本は面白い。 (述定)  
c. 彼は深く息をした。 (副詞化)

上記(3a)は形容詞が語尾変化することなく名詞修飾語として使用され、(3b)でも語尾変化なしで述定機能を持つ。また(3c)では形容詞「深い」を「深く」と語尾変化させ、副詞化させている。以上例文(1)、(2)、(3)を見る限りでは「一な」カタカナ語は、日本語形容詞よりも日本語形容動詞として語彙範疇化されることが推測される。

しかしながら日本語形容詞、日本語形容動詞、「一な」カタカナ語は「一さ」で名詞化できる点で共通性がある。

- (4) a. 美しい (形容詞) →美しさ  
b. 安全 (形容動詞) →安全さ  
c. セクシー(「一な」カタカナ語)→セクシーさ

上記(4)の例文は形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語それが「一さ」と結びついて名詞化することができる事を示している。形容詞の場合は語尾の「一い」を省いて語幹に「一さ」をつけることで名詞化されている。形容動詞、「一な」カタカナ語は「一さ」をそのまま付加することで名詞化している。

本論文の目的は、「一な」カタカナ語の日本語での語彙範疇について考察することであり、その方法については大辞林（三省堂：2004）で形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語の語数、派生語数を比較することによる。

## 先行研究

ここで「一な」カタカナ語の品詞の取り扱いについて先行研究を概観しておきたい。

表1においては、和語、漢語、外来語に「だ」が付いた場合の捉え方に違いが現れている。「形容動詞」について国語学者諸家の概念を整理すると、橋本文法では「静か」「綺麗」「立派」「エレガント」「スマート」を「形容動詞の語幹」とし、それらに「だ」が付いたのを1語とみなしている。一方、時枝文法では、それらを体言（名詞）であるとし、「だ」を指定の助動詞と認定している。宮田文法の「無活用形容詞」は「形容動詞の語幹」のことであり、三浦文法や山浦文法も「形容動詞の語幹」説を唱えている<sup>1)</sup>。

表1 「静的属性概念表現」諸説

静詞	和語		漢語		外来語			
語例	美しい	静か	綺麗	立派	エレガント	スマート		
橋本文法	形容詞	形容動詞の語幹						
時枝文法	形容詞	体言						
宮田文法	活用形容詞	無活用形容詞						
三浦文法	形容詞	活用のない静詞						
	静詞							
山浦文法	静用詞	静体詞						
	静的属性詞 = 静詞							

中島（1987）は従来の「形容動詞」を「形容名詞」とする説について述べている。「貧乏な人」の表現における「貧乏な」の形容詞的性格を「貧乏（形容名詞）」に「な」がついて形容詞となり、「貧乏のつらさ」の「貧乏」が名詞として「の（形式名詞）」をとると説明できただろうが、「形容動詞」と名詞の違いというよりも分かりやすいと思うと述べている<sup>2)</sup>。「貧乏」に形容詞的機能と名詞的機能が備わっているために形容名詞という品詞をたてている。

影山（1993）は「smart, realなどの形容詞を借入する場合はそのまま形容詞（＊リアルい ＊スマート

い）として活用させるのではなく名詞性を持った形容詞すなわち形容名詞（リアルな、スマートな）として使用している」と述べている。つまり「美しい」や「悲しい」などのように語尾に「い」の付く形容詞とはならない点を指摘している。さらに「形容名詞」の特性として「名詞」や「形容詞」との相違点、共通点を以下のように指摘している<sup>3)</sup>。

- ① 統語的な観点からは、形容名詞基体がそのままの形で主語や目的語として機能することからその名詞性を示唆している。
- ② 形態論的観点から、否定を意味する「不一」が名詞と形容名詞には付くが純粋な形容詞と動詞には付かない。
- ③ 形容名詞は接尾辞「一さ」によって名詞化することができるが、この特徴は名詞ではなく、形容詞と平行する。
- ④ 動詞化接辞「一がる」が形容名詞と形容詞を選択する。
- ⑤ 純粋な名詞や形容詞には普通付かない「一な」の屈折語尾を持つ。

野中（1999）は「一な」カタカナ語（前稿ではこれを「英語形容詞の日本語借入語」と表現している）について、影山（1993）の指摘した「形容名詞」の特徴を考察し、以下の点を指摘した<sup>4)</sup>。

- ① 英語形容詞の日本語借入語には、影山の言う日本語形容名詞の持つ特徴は見られない。本稿では、動詞化接辞「一になる」、名詞化接辞「一さ」「一み」「一げ」の結合において、「ナ形容詞」と同様の統語的特徴を持つことが示された。
- ② 英語形容詞の日本語借入語には名詞性がない。これは日本語形容詞や日本語動詞と同様の機能である。

さらに野中（2014）は「一な」カタカナ語の名詞性、形容詞性について検証した。「コンサイスカタカナ語辞典第2版」（三省堂編集所 2000）より抽出した「一な」付加の可能な英語形容詞のカタカナ語639語からランダムに語を選び、文中での統語的特徴について観察した。それらは主語や目的語になり得ず、副詞によって修飾されることができる。また連体修飾文を受けることができない。これらの特徴により、英語形容詞のカタカナ語には名詞性がないと指摘した。また形

形容性については、「一さ」を付けて名詞化できること、「一な」を付けて名詞修飾できること、「一に」を付けて副詞化できることなどは日本語形容詞と平行した形態的特徴・統語的特徴を持つことを示すことを指摘した。「一な」カタカナ語の取り扱いについては、以下に引用する<sup>5)</sup>。

確かに「貧乏」「空腹」「健康」「元気」などは「形容動詞の語幹」として形容詞的機能を有すると同時に主語や目的語となり名詞的機能も有する。このことにより「形容名詞」説が提唱されているが、その語数は名詞的機能を持たない語より少なく、英語形容詞のカタカナ語と併せて名詞性があると一般化するには疑問がある。

野中（2014）の結論は、『英語形容詞は日本語に借入される時、「形容動詞の語幹」として「だ」と結合して述語となり、「な」と結合して形容詞となり、「に」と結合して副詞となるのではないか』<sup>6)</sup>であった。

野中（2014）での「一な」カタカナ語の検証は、ランド関数を使って639語より10語をランダムに選んで、文中での使用の可否をインターネットで確認することにより行われたが、この場合選ばれなかった語に違った特徴が出る可能性も否めない。形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語の全語について確認すれば特徴が明瞭になる。従って本論文では、大辞林（2004）で形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語を抽出し、それらの派生語、例えば名詞化接尾辞「一さ」や形容動詞化接尾辞「一げ」などの語数を調べ、比較することにより「一な」カタカナ語の語彙範疇の取り扱いについて検証することとした。

## 方 法

形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語と助辞「一さ」、「一げ」、「一み」、「一がる」との共起関係を観察し、語形成上の特徴を明らかにするために、大辞林（三省堂：2004 CD-ROM版）に記載されたそれぞれの範疇の語と派生語として共起する語数を数えた。

形容詞は次のプロセスで抽出した。

- ① 検索条件として「・い」と「形」を入れて全文検索する。
- ② 条件外の語も抽出されるので、確認し排除する。
- ③ 検索条件を「・い」と「形」で「一さ」、「・い」と「形」で「一げ」、「・い」と「形」で「一み」、「・い」と「形」で「一が・る」とし、それぞれの語数を数える。1語でそれぞれの条件を重複して有している場合があるが、検索条件を1つにして全体数

と「形」で「一げ」、「・い」と「形」で「一み」、「・い」と「形」で「一が・る」とし、それぞれの語数を数える。1語でそれぞれの条件を重複して有している場合があるが、検索条件を1つにして全体数のなかでその条件を満たす語の数を数える。また条件外の語が含まれている場合があるので確認後、削除する。

形容動詞は次のプロセスで抽出した。

- ① 検索条件として「形動」または「名・形動」と「一な」を入れて全文検索する。
- ② 条件外の語も抽出されるので、確認し排除する。
- ③ 検索条件を「形動」または「名・形動」と「一さ」、「形動」または「名・形動」と「一げ」、「形動」または「名・形動」と「一み」、「形動」または「名・形動」と「一が・る」とし、それぞれの語数を数える。形容詞の場合と同様に検索条件を1つにして語数を数える。また条件外の語が含まれている場合があるので確認後、削除する。

「一な」カタカナ語は次のプロセスで抽出した。

- ① 検索条件として「一な」と「形動」を入れて全文検索する。
- ② ①の語のなかでカタカナ語を抽出する。
- ③ ②の語のなかで「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」を派生語として持つ語を抽出し、それぞれの語数を数える。また条件外の語が含まれている場合があるので確認後、削除する。

## 結 果

形容詞に関しては次の様な結果が出た。前述の方法を基にして説明する。〔 〕が前述の方法となる。

- ① [検索条件として「・い」と「形」を入れて全文検索する]。結果として1448語が抽出された。
- ② [条件外の語も抽出されるので、確認し排除する]。結果として1448語のうち193語が条件外の語であったので1255語が「・い」と「形」の条件に適合する語数となった。
- ③ [検索条件を「・い」と「形」で「一さ」、「・い」と「形」で「一げ」、「・い」と「形」で「一み」、「・い」と「形」で「一が・る」とし、それぞれの語数を数える。1語でそれぞれの条件を重複して有している場合があるが、検索条件を1つにして全体数

のなかでその条件を満たす語の数を数える。また条件外の語が含まれている場合があるので確認後、削除する]。結果として「・い」と「形」で「一さ」は645語あり、条件外の語を削除して641語となった。「・い」と「形」のみは582語、「・い」と「形」で「一げ」は307語、「・い」と「形」で「一み」は36語から条件外の語を削除して35語、「・い」と「形」で「一が・る」は118語であった。形容詞の文法的ふるまいの語数的結果を表2にまとめる。

表2 形容詞の文法的ふるまい

語彙分類	語数	%
派生語「一さ」	641	51.1%
「・い」、「形」のみ	582	46.4%
派生語「一げ」	307	24.5%
派生語「一が・る」	118	9.4%
派生語「一み」	35	2.8%
「・い」、「形」	1255	

形容動詞に関しては次の様な結果が出た。前述の方法を基にして説明する。〔 〕が前述の方法となる。

① [検索条件として「形動」または「名・形動」と「一な」を入れて全文検索する]。結果として3299語が抽出された。

② [条件外の語も抽出されるので、確認し排除する]。条件外の語は969語（「一な」カタカナ語が236語で、「一な」+名詞とならない語が733語）あり、3299語から除外すると2330語となった。

③ [検索条件を「形動」または「名・形動」と「一さ」、「形動」または「名・形動」と「一げ」、「形動」または「名・形動」と「一み」、「形動」または「名・形動」と「一が・る」とし、それぞれの語数を数える。形容詞の場合と同様に検索条件を1つにして語数を数える。また条件外の語が含まれている場合があるので確認後、削除する]。結果として「形動」または「名・形動」と「一さ」は782語、「形動」または「名・形動」と「一げ」は16語、「形動」または「名・形動」と「一み」は5語、「形動」または「名・形動」と「一が・る」は14語となった。形容動詞の文法的ふるまいの語数的結果を表3にまとめる。

「一な」カタカナ語に関しては次の様な結果が出た。前述の方法を基にして説明する。〔 〕が前述の方法となる。

① [検索条件として「形動」または「名・形動」と

表3 形容動詞の文法的ふるまい

語彙分類	語数	%
派生語「一さ」	782	33.6%
派生語「一げ」	16	0.7%
派生語「一が・る」	14	0.6%
派生語「一み」	5	0.2%
「形動」or「名・形動」、「一な」	2330	

「一な」を入れて全文検索する]。この条件は形容動詞の検索条件と同じである。結果として3299語が抽出された。

② [①の語のなかでカタカナ語を抽出する]。結果として236語が抽出された。

③ [②の語のなかで「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」を派生語として持つ語を抽出し、それぞれの語数を数える]。結果として「一な」カタカナ語で「一さ」を派生語に持つのは14語（「形動」で「一さ」は13語、「名詞・形動」で「一さ」は1語）であった。また「一な」カタカナ語で「一げ」、「一み」、「一が・る」の派生語があるのは無く、「名・形動」のみで派生語なしの語数は65語、「形動」のみで派生語なしの語数は157語となった。従って「一な」カタカナ語で派生語を持つのは「一さ」を持つ14語のみとなった。「一な」カタカナ語の文法的ふるまいの語数的結果を表4にまとめる。

表4 「一な」カタカナ語の文法的ふるまい

語彙分類	語数	%
「形動」のみ	157	66.5%
「形動」、「一さ」	13	5.5%
「名詞・形動」のみ	65	27.5%
「名詞・形動」、「一さ」	1	0.4%
派生語「一げ」	0	0.0%
派生語「一み」	0	0.0%
派生語「一が・る」	0	0.0%
「一な」カタカナ語	236	100.0%

## 考 察

前章で観察した結果より、本章第1節では、「一な」カタカナ語の文法的ふるまいについて形容詞や形容動詞と比較して考察する。さらに第2節では、「一な」カタカナ語形容詞の日本語での語彙範疇化の取り扱いに

ついても考察する。

## 1. 「一な」カタカナ語の形容詞と形容動詞

前章の結果より、形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語が派生語「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」を持つ割合の比較が表5で可能となる。

表5 語彙分類別文法的ふるまい

語彙分類	「一さ」	「一げ」	「一み」	「一が・る」
形容詞	51.1%	24.5%	2.8%	9.4%
形容動詞	33.6%	0.7%	0.2%	0.6%
「一な」カタカナ語	7.2%	0.0%	0.0%	0.0%

表5は形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語の文法的ふるまい（「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」）が各分類項目のなかで占める割合を表す。これによって次の様な共通点や相違点が指摘できる。

①形容動詞、「一な」カタカナ語は形容動詞的語幹に「一な」を付加することによって形容詞化される。これは形容動詞と「一な」カタカナ語との語形成上の共通点である。一方、形容詞は形容詞的語幹に「一い」を付加することにより形容詞としての語形成がなされる。これは形容動詞と「一な」カタカナ語との語形成上の相違点であるが、これら3つの語彙分類が名詞修飾の形容詞的機能を持つことは共通点である。

②「一さ」を使って名詞化される語の割合の比較において、形容詞は51.1%，形容動詞は33.6%，「一な」カタカナ語は7.2%となった。それぞれが「一さ」による名詞化を可能にするという意味では共通点といえるが、名詞化される語の割合に顕著な差が生じている部分では相違点といえる。形容動詞と「一な」カタカナ語は「一な」によって形容詞化される共通点を持つにも関わらず「一さ」の名詞化割合が、形容動詞は33.6%で「一な」カタカナ語は7.2%である点については、英語が日本語に借入されて「一な」カタカナ語として使用されていく中で、まだ日本語の形容動詞と同等の名詞化助詞の使用率まで上がっていなことが考えられる。

さらに「一さ」の名詞化割合が、形容詞が51.1%で、形容動詞が33.6%である点については、形容詞と形容動詞が異なる語彙範疇として捉えられているのでその程度の差異が生じるのかもしれないし、形容動詞の中に「形容動詞のみ」機能の語と「名詞と形容動詞両方」の機能を持つ語があるので、名詞機能を含む語

の存在が重複して名詞化することになる「一さ」の使用を阻害しているのかもしれない。因みに前章で数えた形容動詞2330語のうち「形容動詞のみ」の機能を持つ語の数は725語（31.1%）であり、「名詞と形容動詞両方」の機能を持つ語の数は1605語（68.9%）であった。「形容動詞のみ」の機能を持つ語の割合（31.1%）と形容動詞の「一さ」の名詞化割合（33.6%）が近いのはその理由を示す根拠となるかもしれない。また「一な」カタカナ語のうち、「一さ」で名詞化する語は前章表4によると14語を数えたが、形容動詞が名詞化されたのが13語あり、名詞・形容動詞で1語であった。このことも形容動詞の「一さ」を使っての名詞化は、名詞・形容動詞では起こりにくく、形容動詞のみの条件で起こりやすいことを示唆している。

③「一げ」を使って形容動詞化される語の割合の比較において、形容詞は24.5%，形容動詞は0.7%，「一な」カタカナ語は0.0%となった。形容動詞と「一な」カタカナ語は元々形容動詞的機能が備わっているので「一げ」を使って形容動詞化する必要がない。形容詞の場合は形容詞の語幹に「一げ」を付加して形容動詞化される。

④「一み」を使って名詞化される語の割合の比較において、形容詞は2.8%，形容動詞は0.2%，「一な」カタカナ語は0.0%となった。形容詞は1255語のうち35語で、形容動詞は2330語のうち5語であった。形容詞は「青い」、「浅い」、「暖かい」、「新しい」、「厚い」などが「青み」、「浅み」、「暖かみ」、「新しみ」、「厚み」となり、形容動詞は「堅実な」「真剣な」「真実な」、「親切な」、「新鮮な」が「堅実み」「真剣み」「真実み」、「親切み」、「新鮮み」となる。従って形容詞と形容動詞の一部が「一み」と結合して名詞化されることがいえる。また「一み」と結合可能な形容詞、形容動詞は同時に「一さ」との結合も可能である。「一み」に関しては形容詞と形容動詞に共通点があるが、「一な」カタカナ語は「一み」結合可能な語は1つもないで形容詞、形容動詞とは違っている点が指摘される。

⑤「一が・る」を使って動詞化される語の割合の比較において、形容詞は9.4%，形容動詞は0.6%，「一な」カタカナ語は0.0%となった。形容詞は1255語のうち118語で、形容動詞は2330語のうち14語であった。「一が・る」を使って動詞化される語が可能である点では形容詞と形容動詞は共通点があるといえる。「一な」カタカナ語は「一が・る」結合が不可能なので形容詞、形容動詞とは違っている点が指摘される。

表5より「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」結合が可能という点で形容詞、形容動詞は共通する。一方「一な」カタカナ語は「一さ」結合では形容詞、形容動詞と共に通するが、「一げ」、「一み」、「一が・る」結合においては形容詞、形容動詞と異なる。

各語彙分類中の「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」結合の割合の点からみると、「一さ」結合の割合については形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語とそれ差異が大きいが、「一げ」、「一み」、「一が・る」結合の割合については形容動詞と「一な」カタカナ語はお互いに近い割合を有している。また「一な」によって形容詞化する点も共通している。

以上のことから形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語の文法的ふるまいを「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」結合が可能という点からみるのか、または「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」の結合割合の点からみるのかといった疑問が生じる。「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」結合が可能という点からみると形容詞と形容動詞に共通点が多く、「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」の結合割合の点からみると形容動詞と「一な」カタカナ語に共通点が多い。この論については次節で考察する。

## 2. 「一な」カタカナ語の日本語での語彙範疇化

本節では「一な」カタカナ語の日本語での語彙範疇化について考察する。

「一な」カタカナ語は日本語形容動詞として扱つてよいのではないかと考える。その根拠として挙げられる理由を以下に述べる。

①「一な」カタカナ語は形容動詞と同様に「一な」によって形容詞化される。「一な」カタカナ語は「スマートな」や「クレバーな」などのように「一な」を付加することにより形容詞化される。大辞林では236語中232語が英語形容詞からの借用であるが、他の4語も「一な」を付加することにより形容詞化される、同様にコンサイスカタカナ語辞典では656語中639語が英語形容詞からの借用でありその他の17語も形容詞化できる。このことは形容動詞と「一な」カタカナ語に共通する100%の文法現象である。自明のことであるが形容詞の場合は「甘い」、「辛い」などのように既に形容詞であるが故にさらに「一な」付加によって形容詞化する必要はない。

②①の場合と同様の100%の文法現象が形容動詞と「一な」カタカナ語の間に存在する。述定機能「一だ」の場合である。例えば形容動詞「綺麗」、「不思

議」や「一な」カタカナ語「シンプル」、「ワイド」を動詞化する場合は「一だ」を付加して「綺麗だ」、「不思議だ」、「シンプルだ」、「ワイドだ」となる。一方形容詞はそのまま「甘い」、「辛い」を使って述定機能を持つ。①と②の文法現象は形容詞と形容動詞、「一な」カタカナ語を区別する大きな特徴といえる。

③形容動詞と「一な」カタカナ語の間の名詞的機能の違いはどうであろうか。表6は前章の結果より「形容動詞」と「一な」カタカナ語の名詞的機能の割合をまとめたものである。

表6 語彙分類別「形容動詞」、「名詞・形容動詞」の割合

語彙分類	形容動詞	名詞・形容動詞
形容動詞	725(31.1%)	1605(68.9%)
「一な」カタカナ語	155(65.7%)	64(27.1%)

形容動詞2330語のうち「形容動詞のみ」の機能を持つ語の数は725語（31.1%）であり、「名詞と形容動詞両方」の機能を持つ語の数は1605語（68.9%）であった。さらに「一な」カタカナ語236語のうち「形容動詞のみ」の機能を持つ語の数は155語（65.7%）であり、「名詞と形容動詞両方」の機能を持つ語の数は64語（23.1%）であった。この事実は形容動詞においても「一な」カタカナ語においても一概に「形容動詞は名詞的機能を持つゆえに形容名詞とすべき」<sup>7)</sup>とは言えないことを意味する。名詞的機能を持たない語の割合は形容動詞では31.1%，「一な」カタカナ語では65.7%存在するからである。

④前節表5より、形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語の文法的ふるまいを「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」結合が可能という点からみるのか、または「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」の結合割合の点からみるのかといった疑問が生じた。ここでは派生語の観点から見る。

名詞化接辞「一さ」の付加は、形容詞、形容動詞、「一な」カタカナ語とも可能で、形容詞は51.1%，形容動詞は33.6%，「一な」カタカナ語は7.2%となつた。それらの共通点は、形容詞的特性を持つことであり、各語彙類のなかで付加可能な語と不可能な語には意味素性の差異があるのかもしれない。また形容動詞と「一な」カタカナ語との割合の差異は「一な」カタカナ語の日本語順化の度合いが影響しているのかもしれない。

「一げ」は形容詞の形容動詞化接辞として使用される機能を持つと考えられる。結合可能な24.5%の語と

結合不可能な語との間にも意味素性上の差異があるかもしれない。結合可能な形容動詞の16語にも他の結合不可能な語との意味素性上の差異があることが考えられる。

名詞化接辞「一み」の結合可能性は形容詞と形容動詞の「一さ」結合可能な語のうちさらに特別な語に発現している。言い換えれば生産性の低い接辞といえる。これについても意味素性上の要因があるかもしれない。

動詞化接辞「一が・る」は感覚・感情を表す主観的形容詞形容詞と結合し、「うるさい→うるさがる」、「痛い→痛がる」、

「暑い→暑がる」などと使用されるが形容動詞は「不思議がる」、「不安がる」、「得意がる」などの14語であった。形容動詞の場合も感覚・感情を表す主観的形容動詞が結合可能となるのかもしれない。

本節の①, ②は形容動詞と「一な」カタカナ語と同じ形容動詞として語彙分類する根拠となることを示している。③は同じ語彙分類のなかでも名詞機能の有無の差があり、形容名詞と総称する根拠とはならないことを示している。そして④はそれぞれの接辞の結合割合の差異には、それぞれの語彙特性、語の意味素性、「一な」カタカナ語の日本語順化の度合が影響しているのではないかと考えられることを示している。

## 結 語

本論文は「一な」カタカナ語、形容詞、形容動詞の派生語「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」の言語現象を語数の観点から捉えている。

「一な」カタカナ語、形容詞、形容動詞の「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」接合における文法的ふるまいの差異は「語彙特性」、「語の意味素性」が影響しているのではないかと考える。語彙特性の観点からは、形容詞は形容動詞や「一な」カタカナ語と分けられるべきであり、形容動詞と「一な」カタカナ語は形容動詞として語彙範疇化することを提案する。さらに同じ語彙範疇に属する形容動詞と「一な」カタカナ語において存在する「一さ」、「一げ」、「一み」、「一が・る」などの接辞の結合割合の差異は「語の意味素性上の差異」かまたは「一な」カタカナ語の日本語順化の度合による差異と捉えることを提案する。

## 引用文献

- 1) 上田博和：無活用動詞論—漢語外来語の属性概念表現。佐良木昌編。言語過程説の探求第1巻 時

- 枝学説の継承と三浦理論の展開。明石書店（東京），86，2004.
- 2) 中島文雄：日本語の構造—日本語との対比—。岩波新書（東京），82，1987.
- 3) 影山太郎：文法と語形成。ひつじ書房（東京），24-25，1993.
- 4) 野中博雄：外来語の語彙範疇—英語形容詞の日本語語彙範疇化について—。桐生短期大学紀要，10：117-123，1999.
- 5) 野中博雄：英語形容詞のカタカナ語の語彙範疇化について。言語学、文学そしてその彼方へ—都留文科大学英文学科創設50周年記念研究論文集。ひつじ書房（東京），199，2014.
- 6) 同上：200
- 7) 前掲書2)

# On the Lexicalization of “na”-Appended English Loanwords in Comparison with Japanese Adjectives and Adjectival Verbs

Hiroo Nonaka

## Abstract

This study examines the lexical categorization of “na”-appended *katakana* words borrowed from English in comparison with Japanese adjectives and adjectival verbs. In order to consider the lexical categorization of “na”-appended *katakana* words, the number of words and derivatives in adjectives, adjectival verbs and “na”-appended *katakana* words in the *Sūpā Daijirin* (Sanseido, 2004) were compared.

The results confirm the hypothesis that the differences in linguistic behaviors of each lexical category are influenced by the lexical features, semantic features of words and the degree of Japanized process in “na”-appended *katakana* words.

*Keywords:* “na”-appended *katakana* words, Japanese adjectives, Japanese adjectival verbs, number of words, derivatives